

(6) 北 陸



北陸地域では、景気は一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばい。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(_は上方に変更、 _は下方に変更)

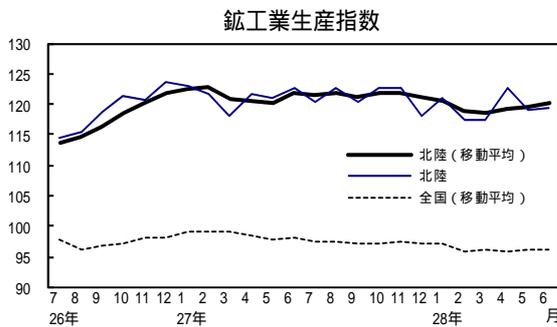
前回調査からの主要変更点

	前回(平成28年5月)	今回(平成28年8月)	
景況判断	弱さがみられるものの、緩やかな回復基調	一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調	
鉱工業生産	弱含み	おおむね横ばい	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

4～6月期には、電子部品・デバイスは、高水準にあるもののスマートフォン用電子部品の輸出が減少していることから減少した。化学は、後発医薬品が好調であることから増加した。はん用・生産用・業務用機械は、金属工作機械等の輸出が減少していることから減少した。繊維は、化学繊維が減少した。金属製品は、軽金属板製品が減少した。



(備考) 1. 22年=100、季節調整値、最新月は速報値。
2. 全国及び北陸の太線は後方3か月移動平均。

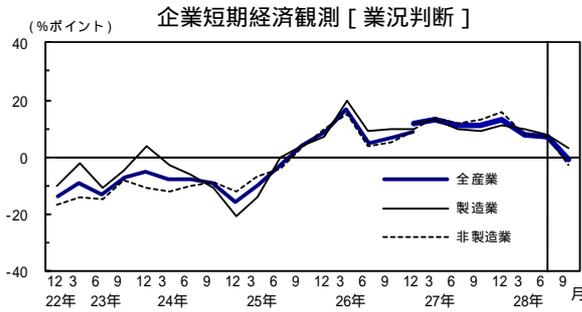
域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1～3 月期	4～6 月期	4月	5月	6月
電子部品・デバイス	20.8	8.1	2.8	1.7	8.4	6.5
化学	13.5	1.4	10.4	23.3	18.9	3.6
はん用・生産用・業務用機械	12.7	4.6	7.1	6.2	5.4	6.3
繊維	8.4	1.1	4.3	2.5	4.1	0.6
金属製品	6.0	0.5	0.8	3.0	3.9	8.2
鉱工業	100.0	2.1	1.5	4.6	3.2	0.4

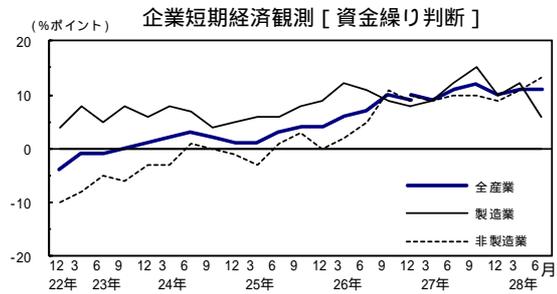
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 4～6月期、6月は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は、「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

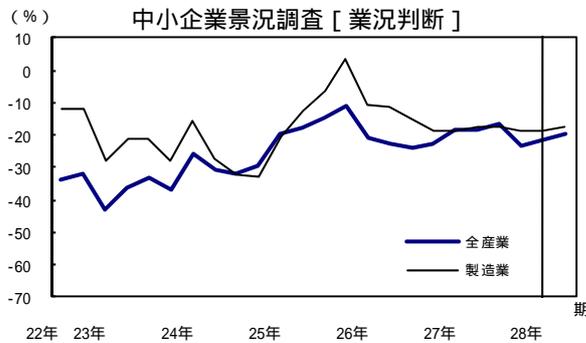
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。28年9月は予測。
26年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
26年12月は新・旧基準を併記。

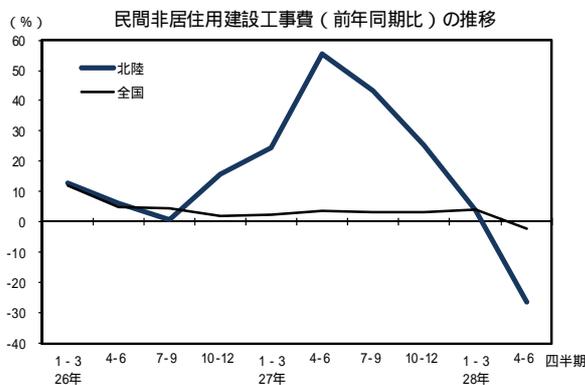


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。28年 期は見通し。
中部地区。

景気ウォッチャー調査(7月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「秋冬物受注の最盛期の時期なので、まずまずの状況であるが、慎重な推移にみえる(繊維工業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は、大幅に減少している。



企業短期経済観測調査[設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	27年度実績	28年度概
全産業	18.0(20.9)	15.0
製造業	43.6(2.2)	2.6
非製造業	7.1(38.7)	41.7

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は、持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

4月は前月比0.2%減、5月は同0.6%減、6月は同0.4%増となった。

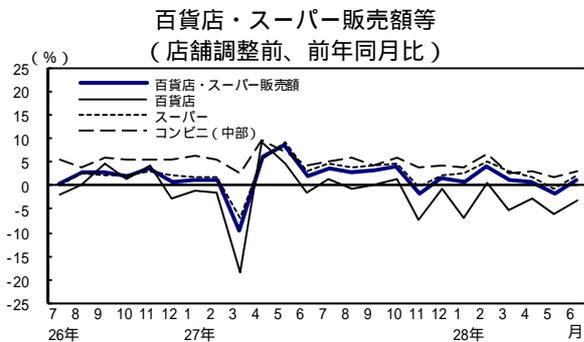
百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、4月は、月後半の気温低下などから衣料品が振るわず、北陸新幹線開業効果の落ち着きなどもあって、前年を下回った。5月は、前年ほど気温が上がらなかったことなどから衣料品を中心に季節商材が振るわず、北陸新幹線開業効果の落ち着きもあって、前年を下回った。6月は、来店客数の減少に加え、百貨店において高額品が振るわなかったことなどから、前年を下回った。

景気ウォッチャー調査 (7月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

北陸地域の家計動向関連DIは、40.0となり前月より2.3ポイント低下した。

「前年比で総売上84%、宿泊人数83%、客単価98%、4名までの個人客の割合が前年比77%と個人客の低下が目立つ。熊本地震の影響で、全国的な旅行マインドの低下が影響していると考えられる(観光型旅館)」など、「悪くなっている」とする回答が増加した。

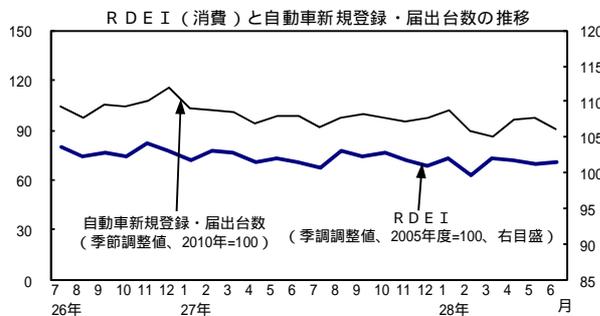


	28年4-6月	28年4月	5月	6月
RDEI (消費*1)	0.3	0.2	0.6	0.4
百貨店・スーパー(*2)	0.0	0.7	1.9	1.2
百貨店(*2)	4.1	2.8	6.1	3.2
スーパー(*2)	1.1	1.7	0.8	2.3
コンビニ(*2)	2.7	3.2	1.8	3.1
乗用車(*3)	3.8	0.6	0.6	9.2
(季節調整値)(*3)	2.7	11.9	1.8	7.5

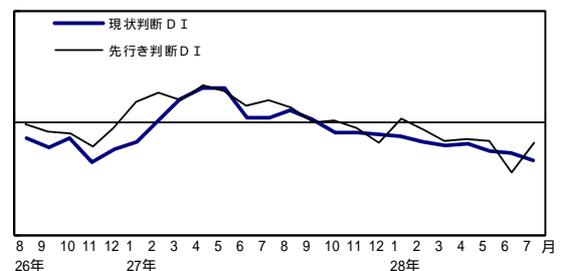
(備考) 1. 季節調整前(期)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)、コンビニは中部

3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



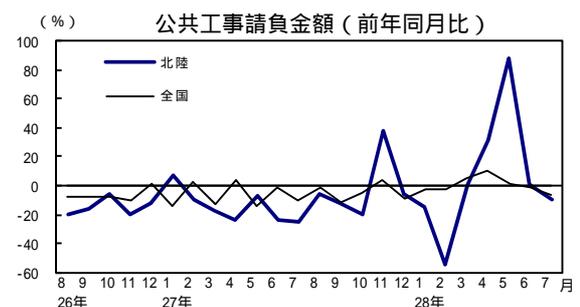
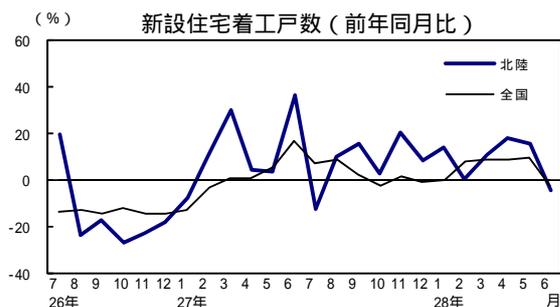
景気ウォッチャー調査 (家計動向関連)



(2) 住宅建設は、増加している。

持家、貸家が前年を上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は、28年度累計でみると前年度を上回っている。

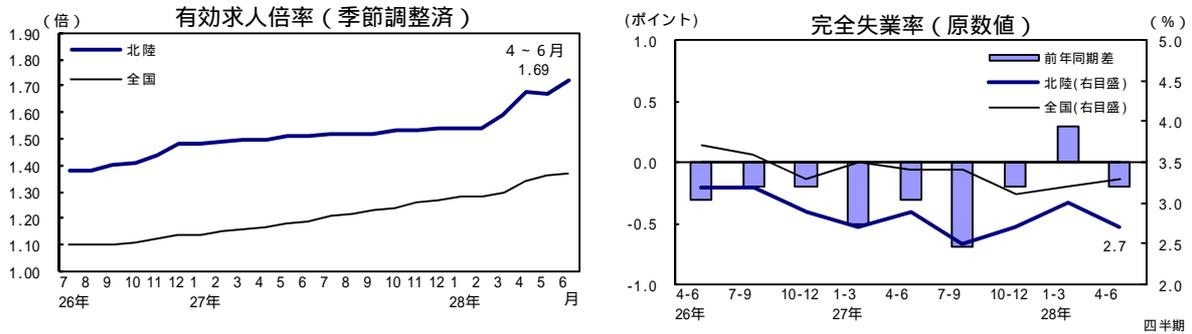


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は、着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (7月調査結果) [雇用関連 (現状)]

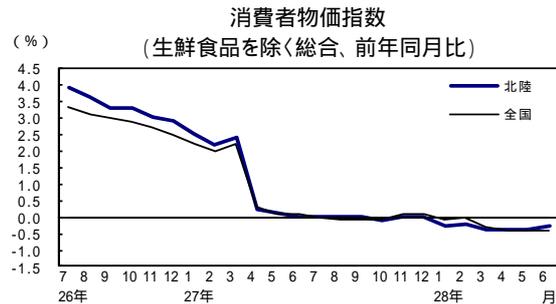
「昨年と比べると求人数は増加している。しかし、受注増であっても利益に反映されないという事業所の声が多く、全体として変わらない (職業安定所)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数は増加、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は、前年比の下落幅がおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	27年7-9月	10-12月	28年1-3月	4-6月	28年7月
倒産件数	37	54	57	63	14
(前年比)	33.9	5.9	14.0	6.8	22.2
負債総額	58	94	232	35	5
(前年比)	31.3	3.6	133.5	95.6	89.0



景気ウォッチャー調査 (7月調査結果) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・夏のバーゲンが例年より早めのスタートで、猛暑でもあったため客の動きは非常に良かった。ただし、昨年より土日が1日ずつ多い月にもかかわらず前年を少し上回る程度で、高額品については動きがなく、全体的には今一つの状態である (百貨店)

<先行き>

・大型造成地の分譲が始まり、北陸新幹線延伸に向けての住宅需要が高まる (住宅販売会社)

